

## 看護学生の老人イメージ調査のための尺度項目の構成

近藤 益子・太田 にわ・池田 敏子  
前田 真紀子・永田 博<sup>\*)</sup>・太田 武夫

A new scale for student nurses to rate image of the elderly

Masuko KONDO, Niwa OHTA, Toshiko IKEDA,  
Makiko MAEDA, Hiroshi NAGATA<sup>\*)</sup>, and Takeo OHTA

Our prior scale for student nurses to rate image of the elderly is inadequate both in number of items used and in exhaustiveness of possible images they have. This study attempts to construct a new rating scale by decreasing the number of the previous items and by incorporating pertinent novel items. A new scale reported here consists of 20 items, with 15 items being determined through a factor analysis of the previous 38 items and 5 items being selected after a survey of relevant studies.

---

**Key Words :** 老人看護, 学生実習, 老人イメージ尺度, 因子分析

---

### はじめに

本学の看護学科では, 老人看護実習を特別養護老人ホームで実施している。先の報告で著者ら<sup>1)</sup>は, この実習を通じて学生の老人観が観念的, 外見的な見方からより具体的で内面的な見方に変化すること, また老人に対するイメージも総じて否定的な方向に変化することを明らかにした。

ところでこの研究で用いた老人イメージ調査では, 38項目からなる尺度を使用した, この尺度にはいくつかの問題点があると考えた。第1に実習後の評定をクラスター分析したところおよそ6つのクラスターに分割できることが認められたことから, 項目数の削減が可能である。第2に, 守屋らの尺度には老人の「知的側面」や「経験の側面」をカバーする項目が含まれていない。第3に学生実習の効果を見るためのこの種の調査は, 一般に実習の前後に行なわれるが, そのために38もの項目を評定させるとき, 学生が困惑を示すことが少なくない。そして最後に, 教育する側の判断に活用するにしても38という項目数は多過ぎる

からである。

以上の4点を考慮し, 今回は先に使用した老人イメージ尺度を因子分析によって再分析を行い, これをもとに新しい尺度項目を構成したので報告する。

### 方 法

分析対象データは前報と同じものを使用した。すなわち1989年本学部第1期生3年生が特別養護老人ホームでの実習後に7段階法で回答した老人の38項目のイメージ調査の結果である。被調査者は76名であるが, 記入もれやイメージについて一つでも回答が欠けていたり記入が不備であったものを除いたため, 分析対象となった被調査対象者数は60名となった。

分析はマイクロソフト社製パソコン用統計パッケージ HALBAU を使用した。

### 結果と考察

因子分析の際の因子数の基準は柳井, 高木<sup>2)</sup>に

---

岡山大学医療技術短期大学部看護学科  
\*) 同 一般教育

よると38個の変数の場合6個とされる。また前報<sup>1)</sup>で報告したクラスター分析によっておおよそ6群に分類できるという結果も考慮して、まず主因子法によって第6因子まで求めてみた。しかし、第6因子の固有値も2.1559と高いことに加え、6因子で説明できる累積寄与率も50%弱と低いので、さらに因子数を15個まで増やしてみた。その結果が表1で、この15因子によって全体の72.58%が説明できる。各因子から最も因子負荷量の絶対値の

高い項目、したがってその因子を最も代表する項目を選ぶと表2のようになる。

以上のは従来使用した38項目からの検討であるが、新たな尺度項目の追加の検討も必要であろう。そこでこれまで看護学生でなされた老人のイメージに関するいくつかの調査<sup>3-6)</sup>と、林<sup>7)</sup>が過去の対人認知構造の研究で抽出した諸因子、およびそこで用いられた形容詞対についての分析でとりあげている項目を参考に検討した。

表1 バリマックス回転後(15因子)の因子負荷量(N=60)

変数名	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	因子7
1 速い/遅い	0.4171	-0.2081	-0.2274	0.2123	-0.1050	-0.0162	-0.2609
2 活発な/不活発な	0.3196	-0.0797	-0.5255	-0.0764	-0.0461	-0.3255	-0.0053
3 生き生きした/生気のない	0.5443	0.1440	-0.4312	-0.0187	-0.0595	0.0050	-0.2638
4 健康な/不健康な	0.0902	0.2482	-0.1408	0.1742	0.0017	-0.1001	-0.0254
5 美しい/みにくい	0.6949	0.0380	-0.1085	0.0404	-0.2622	-0.1538	-0.0404
6 清潔な/不潔な	0.8274	0.0280	-0.0789	-0.0825	-0.0682	-0.0997	-0.0803
7 強い/弱い	0.0615	0.1290	0.0886	0.1878	0.0626	0.0089	0.0580
8 きれいな/きたない	-0.4839	0.0258	-0.2063	0.1226	-0.0819	-0.1329	0.0272
9 するどい/にぶい	-0.1185	-0.1966	0.3522	0.0699	0.1681	-0.0446	0.5728
10 やわらかい/硬い	0.2757	0.0010	-0.0422	-0.0041	-0.1806	-0.0841	-0.0138
11 おだやか/はげしい	-0.0152	-0.1212	-0.0875	-0.7853	0.0940	0.0161	0.0008
12 積極的な/消極的な	0.0570	0.2455	-0.1934	-0.2829	-0.2689	-0.0865	-0.0192
13 気長な/気短な	0.1136	-0.0361	-0.0033	-0.7354	-0.2363	0.0882	0.0362
14 能動的な/受動的な	0.1559	0.0902	-0.5089	-0.4353	-0.1096	-0.0795	-0.1219
15 厚みのある/うすべつらな	0.0254	-0.1922	-0.0100	0.0123	0.0346	0.7616	0.1010
16 楽天的な/悲観的な	0.0349	0.1551	-0.1657	0.0334	-0.1508	-0.1515	-0.0309
17 デリケートな/がさつな	0.1029	0.1304	-0.0765	0.1463	0.4472	-0.3202	-0.1115
18 雄大な/ちっぽけな	0.1743	0.1570	-0.0802	0.1176	-0.0606	-0.8265	-0.1128
19 安楽な/不安な	-0.2376	-0.0278	0.3942	-0.1217	0.1561	-0.0776	-0.0690
20 幸福な/不幸な	0.0270	0.3946	-0.0550	0.0961	-0.1759	-0.0870	0.2055
21 満足な/不満足な	-0.0027	0.0415	-0.0537	0.0245	-0.2155	-0.1606	0.0548
22 自信のある/自信のない	-0.0067	0.0311	-0.0841	-0.1747	-0.0290	-0.1712	-0.2771
23 正直な/不正直な	0.0090	0.6997	-0.1198	0.0866	0.2401	-0.0583	-0.1973
24 誠実な/不誠実な	0.1122	0.5288	0.0617	0.0581	0.1716	-0.1733	-0.3574
25 明るい/暗い	-0.3951	-0.1471	0.2380	0.1402	0.1008	0.0330	0.2764
26 あたたかい/つめたい	0.0161	0.7981	0.0739	0.0305	0.0082	-0.2143	-0.1076
27 注意深い/不注意な	0.0239	0.1707	0.0849	0.1796	0.0011	-0.1018	-0.7184
28 はっきりした/ぼんやりした	-0.1927	-0.0797	0.0532	0.1345	-0.0328	0.2148	0.7172
29 現実的な/空想的な	-0.1558	-0.0287	-0.0223	-0.0203	0.0832	-0.0039	-0.0645
30 進歩的な/保守的な	0.0821	-0.2686	-0.5266	0.1240	-0.1165	0.2318	0.0541
31 にぎやかな/孤独な	0.2039	-0.1061	-0.1986	-0.1283	-0.7507	-0.1011	0.0580
32 忙しい/ひまな	0.2941	-0.0420	-0.1711	0.0174	-0.2772	-0.1120	-0.0174
33 独立的な/依存的な	0.0784	-0.0015	-0.6912	-0.2012	-0.3043	-0.0963	-0.0511
34 協力的な/非協力的な	0.0676	0.4319	-0.1696	0.1352	-0.1894	-0.0100	-0.0133
35 好意的な/拒否的な	0.0471	0.2808	0.0894	0.0967	0.0630	-0.1709	-0.1125
36 裕福な/貧乏な	0.2025	0.0154	0.0044	-0.0037	-0.1327	0.0202	0.0642
37 親切な/不親切な	0.0308	0.5217	0.1548	0.5170	-0.1847	-0.3382	0.0275
38 にぎやかな/さびしい	-0.1518	0.0119	0.2034	-0.1434	0.6717	0.0643	0.1699
因子負荷量2乗和	2.6606	2.6237	2.2568	2.1342	2.0355	2.0268	2.0036
寄与率(%)	7.0016	6.9045	5.9388	5.6164	5.3566	5.3336	5.2725
累積寄与率(%)	7.0016	13.9061	19.8449	25.4614	30.8180	36.1516	41.4241

大山ら<sup>3)</sup>の調査で使われた27項目の形容詞対は本研究で抽出された15項目の内容と、表現の違いはともかくほぼ同じものを掲げていると思われる。

鳴海ら<sup>4)</sup>は一定の刺激語に対する実習後の学生の回答から、「豊かな知識」、「やさしさ」、「尊敬」、「頑固さ」、「孤独で寂しい」などの項目が特徴としてあげられること、また教科書で教えられる「退行」のイメージから「悲嘆」へのイメージに変化することを報告している。このうち「豊か

な知識」および老人の処遇としての質問項目として調べられた「尊敬」に相当する項目は著者らの15項目には含まれていない。

松岡ら<sup>5)</sup>の調査では74対という多数の項目が同様にとりあげられている。これの因子分析の結果では従来指摘されている社会的、心理的、肉体的特徴に加えて総合評価因子の4因子があることを指摘している。この総合評価とされる項目の「依存性」、「孤独」といった項目は我々の項目と一致

因子 8	因子 9	因子 10	因子 11	因子 12	因子 13	因子 14	因子 15	共通性
0.3912	-0.3965	0.2005	-0.0797	-0.1599	0.0566	-0.0602	0.1217	0.7974
-0.0242	-0.2052	0.2520	0.0734	0.1048	0.2883	0.0514	0.0603	0.7105
-0.1351	-0.1518	0.0934	0.0902	-0.1225	0.3046	-0.1483	-0.0909	0.7728
-0.0664	-0.0089	0.5858	0.1210	0.0106	0.2911	0.0992	-0.1297	0.6044
-0.0981	-0.0489	0.1081	0.1663	-0.0146	0.0368	0.0493	-0.0072	0.6472
-0.0823	0.1341	0.0961	-0.1226	0.0959	0.1282	0.0375	0.1609	0.8214
0.1333	0.8052	0.2056	-0.1423	0.0413	0.0244	-0.0731	0.0223	0.8077
0.0315	0.2495	0.1041	-0.4379	-0.1578	-0.3129	0.0270	-0.1653	0.7342
-0.1512	0.0599	-0.0685	-0.1352	-0.1619	0.0916	-0.1529	0.0697	0.6522
-0.1208	-0.0066	-0.0436	0.0680	0.1682	0.0639	-0.0212	0.6980	0.6588
-0.0016	-0.0966	0.0671	0.0430	-0.0165	-0.0156	-0.1043	0.0324	0.6765
-0.2131	-0.4131	0.0142	-0.1105	-0.0258	0.0448	-0.0643	0.2525	0.5602
-0.0340	-0.1386	-0.1765	-0.0879	-0.0937	-0.0377	0.0575	-0.0362	0.6940
-0.1998	-0.3517	-0.0617	-0.0461	-0.1119	0.0966	-0.3709	0.0465	0.8452
-0.0788	-0.0196	-0.2736	-0.0525	-0.0179	-0.0750	-0.1376	0.0168	0.7386
-0.0019	-0.1030	-0.0393	0.0599	-0.0028	0.1093	0.7501	-0.0134	0.6910
0.2242	0.2484	0.2459	-0.0893	-0.2444	-0.2683	0.0987	0.1607	0.7175
-0.1400	-0.0184	-0.1735	0.1301	0.1560	0.0509	0.0134	0.0545	0.8718
0.3193	0.4243	-0.0560	0.1440	0.0112	0.1475	-0.2499	0.1711	0.6820
-0.3580	0.1673	0.3046	0.1600	-0.1410	0.2511	0.0956	-0.1040	0.6268
-0.2103	-0.0485	0.0549	0.8481	-0.0776	0.0514	0.0469	0.0019	0.8603
-0.6498	-0.1281	0.0660	0.0410	-0.0861	-0.0135	0.1207	0.0523	0.6151
-0.0391	0.0712	-0.1457	-0.0127	0.0477	-0.1090	0.2352	0.0499	0.7115
0.0002	0.1887	0.0911	0.1292	0.1750	0.1108	0.2787	0.0563	0.6710
0.2146	0.1135	0.2510	-0.2424	0.0466	-0.1270	-0.0445	0.3747	0.6831
-0.0835	0.0222	0.1719	0.0314	0.2369	0.0033	-0.0149	-0.0890	0.8034
0.0411	0.1134	-0.1495	-0.0353	-0.1347	0.1270	-0.1192	-0.0108	0.6824
0.1351	0.2098	-0.0223	0.1336	-0.2248	0.0660	-0.0632	-0.0282	0.7663
-0.0381	-0.1985	-0.7722	0.0022	0.0152	0.0239	0.0746	-0.0364	0.6820
-0.2113	-0.0039	-0.0991	0.0820	-0.1448	0.1040	0.0527	0.2393	0.5948
-0.1105	-0.1241	0.1129	0.1460	-0.0113	0.1412	0.1213	0.0854	0.7896
0.0079	0.0500	0.0720	0.0781	-0.0724	0.7771	0.0864	0.0457	0.8401
0.1478	-0.0370	-0.0008	0.0154	0.0084	0.0894	0.2656	-0.0474	0.7332
0.0974	0.2186	-0.0487	0.0954	0.5194	0.1005	-0.2957	0.0739	0.7159
-0.1539	0.0199	-0.0012	-0.1158	0.7632	-0.1024	0.0809	0.1112	0.7936
-0.8084	-0.1396	-0.0426	0.2385	0.1630	0.0198	-0.0897	0.0703	0.8351
0.1649	-0.1063	0.0869	-0.1014	0.0564	-0.0801	-0.1648	0.0909	0.8150
0.0778	-0.0177	-0.0245	-0.2219	0.0388	-0.1800	-0.0313	-0.1272	0.6766
1.9826	1.8287	1.6274	1.4035	1.3524	1.3492	1.2922	1.0021	
5.2175	4.8125	4.2826	3.6935	3.5589	3.5504	3.4005	2.6370	
46.6415	51.4540	55.7366	59.4301	62.9891	66.5395	69.9400	72.5770	

表2 15因子から選んだ項目

因子1	清潔な	／不潔な
因子2	あたたかい	／つめたい
因子3	独立的な	／依存的な
因子4	おだやかな	／はげしい
因子5	にぎやかな	／孤独な
因子6	雄大な	／ちっぽけな
因子7	注意深い	／不注意な
因子8	裕福な	／貧乏な
因子9	強い	／弱い
因子10	現実的な	／空想的な
因子11	満足な	／不満足な
因子12	好意的な	／拒否的な
因子13	忙しい	／ひまな
因子14	楽天的な	／悲観的な
因子15	やわらかい	／硬い
追加項目		
16	経験に富む	／経験に乏しい
17	知的な	／知的でない
18	生氣のある	／生氣のない
19	ユーモアのある	／ユーモアのない
20	社交的	／非社交的

している。また比較的一致しがたい項目と思われる「敗北者／功労者」, 「厄介者／なくてはならない人」, 「迷惑／感謝」といった第1因子すなわち社会的特徴の項目は、著者らの研究ではイメージというより老人観としてとりあげている。この第1因子は現在の断面的表現というより老人の人生を時間的に捉えた印象でもある。その意味では老人の長い人生を捉えるイメージとして表現するには「経験に富む／経験に乏しい」, 「知的な／知的でない」といった項目になるのではないかと考える。これは先に述べた「豊かな知識」に相当する。またこの点は中里の分析における「理性性」, 林<sup>7)</sup>のいう「理性性 (文化的洗練性)」にも相当しよう。

大谷, 松木<sup>8)</sup>の研究で使用されたイメージ10項目との比較では、肯定・否定の概念では捉え難い「白い／黒い」という項目は別とすると、15項目の中には「さっそうとしている」に相当するイメージが無いと思われる。

また林<sup>7)</sup>の枠組を参考にするならば、ここで取り上げられた15項目は誠実性, 親和性, 温厚性を表現する項目はよく充たしていたと考えられる。比較的表現に近いものがなかったと思われる先述の経験, 理性性の項目以外では、力本性 (強靱性, 意欲性) の尺度として当初の38項目には含まれた「生き生きした／生氣のない」の項目を残したい。これは先の15因子の分析のなかの第1因子の中で「清潔な／不潔な」, 「美しい／みにくい」について因子負荷量が高く、同様に高い「速い／遅い」, 「活発な／不活発な」といった項目とよく似ながら、やや違ったイメージを示しており、大谷の「さっそうとしている」にも通じると考えるからである。

また同様の比較をおこない、明朗性 (快活性) の尺度として飯島<sup>9)</sup>, 林<sup>7)</sup>の使用した「ユーモアのある／ユーモアのない」を、また外向性を示す「社交的／非社交的」の2項目を付加すべきではないかと考えた。

以上のような分析と考察によって、先に挙げた15項目に加えて、「経験に富む／経験に乏しい」, 「知的な／知的でない」, 「生氣のある／生氣のない」(「生き生きとした」の表現を改めたもの), 「ユーモアのある／ユーモアのない」, 「社交的／非社交的」を加えた20項目を老人のイメージ調査の尺度項目として挙げることは妥当ではないかと思われる(表2)。なお20項目という数そのものを制約する理由はないが、経験的・直感的にこれくらいの数字がこの種の調査に適当ではないかと考えられること、および切りのよい数字であるという理由によっている。

なお今回のデータは特別養護老人ホームという施設に生活する老人について、1週間という短い実習を通じて得られた学生のイメージであって、在宅老人やなんら身体的ハンディキャップを持たない老人では異なった因子あるいは項目が得られることは十分考えられる。

## む す び

これまでのデータの因子分析結果および文献の考察から、20項目を選んで看護学生の老人イメー

ジ調査のための尺度を構成した。その有効性については実際の使用と再度の分析を通じて検討したいと考えている。

## 文 献

- 1) 近藤益子, 太田にわ, 池田敏子, 前田真紀子, 伊東久恵, 太田武夫: 看護学生の老人施設実習前後における老人観及び老人イメージの変化に関する研究. 岡大医短紀要3: 105-113, 1992.
- 2) 柳井春夫, 高木広文(編著): 多変量解析ハンドブック. 現代数学社, 東京. 191, 1991.
- 3) 大山端穂, 馬場昌子, 水田チヨ子: 特別養護老人ホーム実習前後における看護学生の老人像: 愛看短誌19: 55-62, 1987.
- 4) 嶋海喜代子, 佐藤敏子, 藤沢里子, 永江美千代, 正木治恵, 土屋陽子, 野口美和子: 看護学生の老人観に関する研究(第3報): 千葉大学看護学部紀要10: 13-21, 1988.
- 5) 松岡 緑, 西田眞寿美, 関 文恭: 因子分析による看護学生老人像に関する研究: 九州大学医療技術短期大学部紀要8: 35-43, 1981.
- 6) 大谷英子, 松木光子: 看護学生の老人イメージと老人ケアに対する姿勢の変化. 第22回看護学会(看護教育)抄録集83-87, 1991.
- 7) 林 文俊: 対人認知構造の基本次元についての一考察. 名大教育学部紀要25: 233-247, 1978.
- 8) 飯島婦佐子: 対人認知の構造についての因子分析的研究. 日本心理学会第25回大会発表論文集455, 1961.